

# はにい みんなが笑顔になるには 平成26年10月9日

『時計が5時50分をさしているのを見て、ぼくはどんなことを考えたんだろう?』  
5年1組の道徳の授業。



主人公の『ぼく』は、いつも暗くなるまで遊んでしまって母に心配をかけている。そこで、これからは6時までには必ず帰宅することを母親と約束した。

ところがある日、いつものように友達と公園で遊んでいると、家のカギをなくしてしまった見知らぬ子どもに出会う。その子は泣きそうな顔で必死にカギを探している。『ぼく』は時計を見た。時計は5時50分をさしている……。

「『ぼく』は見知らぬ子を助けたいと思ってると思うけど、お母さんとの約束があって困っていると思います」

「私も同じで、お母さんと約束した時間が迫っていて、心配かけたくないと思ってると思う。だけど、一緒にカギを探してあげたいとも考えていると思います」

意見がつながる。

「でも、やっぱりかわいそうだから一緒に探すとします」

クラスの雰囲気は『一緒に探す』に傾きかけたとき、一人が手を上げた。

「私は探すに反対です。理由は家で約束を守らないことが多かったからです」

ここから、たくさんの手が上がり、また意見がつながっていった。

「自分だったらお母さんに怒られるから帰るとします」

「でも『ぼく』は迷うと思います。自分だったら探すのを手伝うと思うけど」

カギをなくして目の前で困っている子と、家で待つ母親との間で、自分を探す子どもたちでした。



『はにい』はコミュニケーションツールです。みんなで語り合しましょう。  
ご意見・ご感想は → [inochi4027@pref.kanagawa.jp](mailto:inochi4027@pref.kanagawa.jp)